

連日、新聞やテレビからおびただしい量の政治ニュースが流されている。もし、それを報じる記者たちが、取材対象である政府からカネを買っていたとしたら、そのニュースは信じるに値するものなのだろうか。大メディアの根幹にかかわる問題を問うている本誌のキャンペーン。ついに、元NHKの官邸キャップが衝撃の告白をした――。

「お土産代」を渡された

野中広務元官房長官をはじめ、カネを渡した側の証言は次々出てくるのに、渡された側は口をつぐむばかり――。官房機密費のマスコミ汚染をめぐる歪な状況に、ついに風穴が開いた。記者クラブメディアの要職に就いていた人物が、自ら体験した官房機密費供与の実態を告発したのだ。

取材に応じたのは、元NHK記者の川崎泰資氏。東大を卒業後1959年に入社、政治部や西ドイツ（当時）ボン支局長、甲府放送局長などを経てNHKを退職後、『NHKと政治』（朝日新聞出版）などの著書で、報道への政治介入を批判した。相山女学園教授などを歴任し、現在は、NPO法

人マスコミ市民フォーラム理事長を務めている。川崎氏は1960年代から官邸担当となり、田中角栄、三木武夫政権においてNHK官邸キャップを務めた。当時、メディアの中で最も身近に機密費と接していた人物だ。以下が川崎氏の証言である。

*

機密費について見たことも聞いたこともなかったという政治記者がいたら、それは記者としてレベルが低いということ。政治記者というのはインナーサークルに入り込まなかったら一人前じゃないんだから。

官房長官が記者たちを招待してやる料亭での懇談会は、月に1度ぐらいのべ

スであったが、出てカネを払ったことはない。それと、首相の佐藤栄作が外遊したらネクタイを何百本と買ってきて秘書官が番記者みんなに配るとか、そういうことは当然のようにやられていた。要するに、政治家にとっては自分の子分も

記者クラブの記者も同じ感じなんだよ。派閥の身内と同じに思っている。これは機密費ではないけど、派閥の忘年会に参加すれば、テレビや冷蔵庫、洗濯機とい

ろんな品が景品で出ていた。これはダメだなと思ったのは、官房長官主催のゴルフコンペ。いわば官房長官杯だね。コンペには官邸から各記者宅にハイヤーを回していた。こんなおかしなことはないと私は参加しなかった。会費はもちろんゼロ。アゴ足つきで全部出る

んだから。そうやって記者を飼う慣らしていくんだよ。

いわゆる官邸による記者の「餌付け」の第一段階である。そして川崎氏は、ついに現金受け渡し申し出を受ける。

佐藤栄作首相が1967年に台湾を外遊した際、当時、新聞とラジオ・テレビの記者団があつて、私はラジオ・テレビの幹事をやっていた。ホテルに着くと、総理の首席秘書官から部屋に来てくれといわれた。部屋に入ると、彼はいきなり封筒を渡してきた。何だろうと思って見たら100万円札が入っていた。驚いたよ。今とは違って1万円360円だから大変なものだよ。

（100万円3万6000円。当時、大卒初任給は2万5000円程度のため、100万円は現在の約30万円に相当。）
それで「何ですかこれは？」と聞いたら、「いやいや、ともかくお世話になるから、お土産でも買っていったらどうですか」という。「冗談じゃないですよ」と突っ返したら顔色が変わって、「あなた、そんなことをしたら仕事ができなくなるよ」とはつきりいつてきた。「心配することはない。あなたの先輩もみんな受け取っているんだから。断わった人はあなたが初めてだ」というんだ。彼は新聞記者出身だったからね。

到着してすぐで、幹事の役目が務まらなくなるとまじいから、仕方なく「預かります」とした。帰国後すぐにNHKの官邸にいた佐藤派の先輩記者に「あなたから返してください」と頼



上杉隆
(ジャーナリスト)
と本誌取材班